

平成28年7月8日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

議会広聴広報特別委員会広報小委員会
小委員長 菅野 稔

平成28年度 管外行政視察報告

議会広聴広報特別委員会広報小委員会の管外行政視察の概要は、下記のとおりでありますので報告します。

記

- 1 期 間 平成28年5月26日(木)
- 2 行政視察地 ①川崎町議会 (人口 9,147人 H28.7.1現在)
及び研修項目 ・議会報の作成について
- 3 出席委員等 副小委員長 鵜浦昌也 委員 畠山恵美子
委員 中野貴徳 委員 伊勢純
委員 菅野定
(小委員長 菅野 稔 欠席)
随 行 局長補佐 菅野 洋
随 行 主 任 佐々木 真理
- 4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

議会広聴広報特別委員会広報小委員会行政視察報告

広報小委員会では、議会報の作成について研修するため、川崎町議会を訪問し、行政視察を行いました。

○川崎町議会

川崎町議会は、これまでの町村議会広報全国コンクールで上位入賞するなど、内容が高く評価されています。そこで、本市議会広報紙の更なる充実を図るため、編集や発行の在り方などについて研修しようと視察しました。

同町議会の広報紙充実に向けた取り組みは4年ほど前から始まり、「町民の皆さんに見ていただける広報紙」をテーマに進めてきました。

以後、全国コンクールで表彰された他市町村議会へ年2回、2人ずつ視察研修するなどしてきましたが、2年ほど前からは編集委員6人全員揃って研修に訪れているほか、専門家からのクリニックなどを行っているそうです。

具体的な編集作業は、前回発行した広報紙の検証からスタート。読者である町民からの反響や自らの反省点や改善点などを各委員が出し合い、その意見を集約し、反映させながら新たな広報紙づくりを始めているとのことでした。

発行までの工程は、記事の抽出や記事の内容確認、試し刷りの校正と進め、編集委員会の開催はおおむね5回。編集にあたっては、議事録形式ではなく、町民に親しまれ、かつ見やすい紙面づくりを基本とし、専門用語を避けて分かりやすい表現に努めているそうです。

また、町民数人を議会広報コラボレーターに委嘱。写真の撮影や取材など、無報酬で協力してもらっているとのことでした。このほか、町民や企業・団体の紹介をシリーズ化したり、最終ページには季節に合わせた町の風景写真を掲載するなど、町民に親しまれ、興味が持たれるような編集に心掛け、町民が必要としない内容は取捨しているとのことでした。

指導していただいた町議からは「広報紙を充実させたいと思うなら、本気で変えたいという熱意を持たないと変わらない」「広報紙に対する熱意を編集委員の各議員が共有することが大事」「視察に出かけたら、行ったなりの良い広報にする」「私たちも、最初は他の優れた広報紙を真似することから始めた。ぜひ参考に」などとアドバイスを受けました。

川崎町議会の視察において改めて考えさせられたのは、議会の広報紙とは、議会そのものがどんな課題意識を持ち、どんな議会を創っていこうとするのか、その理念と方向性、そして実践の反映の体現化であり、単に紙面を変えることではないということです。

議会だよりの今後について、様々な角度からのアプローチができることを具体的ななかたちで学ぶことが出来たと思います。

現状よりは「見た目」として、もう少しやさしい言葉づかいであったり、写真の扱いやサイズなどの工夫が必要であり、内容としても議会としての立場を明確にし、当然ながら市広報とは別だというものがどこにあるのか、といった検討も同時に必要だと感じました。

発行することが目的ではなく、市民の皆様には先ずは手に取ってもらうことから、というくらいの気持ちで考え、より議会を身近に感じていただく手段の一つとして議会だよりをつくっていきたいと思います。

本市議会の議会だよりは、間もなく記念の100号を迎えます。その際は内容を一新する絶好の機会であり、今後、どのような内容にすべきかじっくりと考えていきたいと思っています。